



雨ザラシ工房 (革)

色々な表情を
見せてくれる革。
「かわいいー！」
そんなお客さんの声が
聞こえてくるような作品。



革でかっこ良く作られた
道具置き。

工房兼ショップとなっている
お店には、オリジナルの作品と
セレクトされた雑貨や靴など
様々な商品も置かれている。作
業風景も見られ、オープンな作
りとなっている。
以前は建築関係の仕事をして
いたが、普通っていた町の靴屋
さんをきっかけに、興味のあつ
た革の世界へ移ることになる。
そしてそこで働きながら、東京
の学校へ通い本格的に革作り
を学び始める。
「作家と言うより、元々は修理
畑の人間なんです。」
そこでの仕事はオーダー制作
はもちろんだが、修理の仕事を
数多く行っていた。
そして、18年間働いた後、昨年
五月に独立。「雨ザラシ工房」と
して活動を始めた。

「焼きがま」「焦げがま」
「しよってアルマジロ」など…
思わずクスツと笑ってしまふ。
そんな作品を見た人は、いかに
楽しみながら革と向き合ってい
るのか、書かずとも充分に想像
がつくだらう。



革を薄くして行く作業。
作品作りにはかかせない！

また、デザインは去る事ながら
作品の独特なネーミングがやは
り面白い。

「手作り感をだし過ぎない様に
作っています。プロダクツとク
ラフトの間というか…」
雨ザラシ工房の作品は、手作
り感溢れると言うよりも、しつ
かりとしている作りのイメージ
を受ける。
それは、ランドセルの作りをみ
ると一目瞭然だらう。

「驚きや可愛さと言うのは意識
しています。普通のものじゃなく
て、見た人のどこかにひっかかる
様なものを作りたい。だから、こ
の仕事をしているのかな…。」
クラフトフェアが昔から好きで
見に行っていて、いつか作り手側
に立ちたいと思っていた夢が叶
い、今ではクラフトフェアでは沢
山のお客さんが「可愛いー」と声
を上げている。そして、子供たち
は夢中になって革遊びをしてい
る。
雨ザラシ工房のアイデア溢れ
る作品を、ぜひ手に取って見て
欲しい。



靴の持ち手の部分は
手で丁寧に縫っていく。

手に取ったなら思わず笑みがこぼ
れ、よく見ればしっかりとした
作りに驚く。

